胆沢区

豊作願い厄年連が力を発揮

第24回全日本農はだてのつどい

ことし新調された福俵。厄年連が力を合わせて引きました

地域に伝わる農耕文化や伝統行事の継承を目指した祭り、第24回全日本農はだてのつどい（いさわのまつり実行委員会主催）が2月9日、胆沢野球場特設会場で開催され、さまざまなイベントで盛り上がりました。「福俵キャッチ」や縄ないの早さを競う「縄ないチャンピオン決定戦」など、寒空にもかかわらず、子どもたちが多数参加。日本一の大臼を使用する「福餅つき」では、つきたての餅が約500食振る舞われ、瞬く間に無くなりました。

祭りのクライマックスで引く福俵は、ことし新調されたもの。厄年連が直径2.5㍍、重さ8㌧の福俵を勢いよく引っ張ると、観客からは大きな拍手と歓声が送られていました。

前沢区

前沢牛と地場食材がコラボ

前沢牛といわての食材料理コンテスト

前沢牛といわての食材料理コンテスト（岩手前沢牛協会主催）の最終審査が2月23日、水沢第一高等学校で開催されました。前沢牛と県産食材のＰＲ、食材を大事にする料理人の育成を目的に開かれたもので、全国から応募のあった142点の中から一次審査を通過した10人が最終審査で腕を競いました。

最優秀賞には、新人の部は盛岡グランドホテルの七戸翔輝（しちのへしょうき）さん、学生の部は三重県立相可（おうか）高校2年の奥田知里（おくだちさと）さんが選ばれました。

最優秀賞の七戸さん（前列左から3人目）と奥田さん（同4人目）

蘇民袋を激しく奪い合う男衆

水沢区

掛け声が極寒の境内に響く

五穀豊穣、無病息災願う黒石寺蘇民祭

天台宗の古刹（こさつ）である黒石寺で、2月16日の夜から翌早暁（そうぎょう）にかけて蘇民祭が開催されました。毎年旧正月の7日に開催され、五穀豊穣と無病息災を祈願する祭り。瑠璃壺川（るりつぼかわ）で身を浄めた男衆が、柴燈木登（ひたきのぼり）や別当登（べっとうのぼり）などの行事に「ジャッソウ・ジョヤサ」と気勢を上げ、祭り最大の見どころである蘇民袋争奪戦では、激しく蘇民袋を奪い合いました。

ことしは土曜日の開催となり、多くの見物客が訪れ「東奥の奇祭」と呼ばれるこの祭りを楽しみました。

米粉麺の新メニューに期待

前沢区

奥州産米粉を使った麺の試食会

一般社団法人奥州市観光物産協会と前沢料飲店組合主催の奥州産米粉を使った麺の試食会が２月 25 日、前沢区内の飲食店で行われ、商工会員や市民など約 30 人が参加しました。試食した麺は市内産米粉 100㌫で作られ、原料が白米、玄米、古代米の３種類。平麺を使ったざる盛りや太麺を使ったナポリタンなど６品を試食しました。参加した飲食店関係者は「麺に弾力がありおいしい。地元食材と合わせた商品化を検討したい」と新メニューの開発に意欲的でした。

新たに開発された米粉麺を試食する参加者

一般男女混合の部で優勝した稲瀬体協Ｂチーム（左）

一本の綱に気持ちを込めて

江刺区

第７回奥州市民体育祭綱引競技

第７回奥州市民体育祭綱引競技（市・市体育協会など主催）が２月 24 日、江刺西体育館で開催されました。開催地の江刺区は綱引きが盛んな地域で、江刺区としては26回目のこの大会。４部門に12チーム約 100 人が参加しました。

友人に誘われ初めて参加したという稲瀬体協Ｂチームの和賀奈緒美さん（28）は「綱引きは久しぶりだが、奥が深くて面白い」と息を弾ませ話してくれました。

多文化共生の地域を目指し

水沢区

とっても知りたい！外国人のホンネ

「とっても知りたい！外国人のホンネ」（市国際交流協会主催）と題したトークショーが２月 17 日、水沢区のメイプルで開かれました。外国人市民が生活する上で欠かせないライフラインや交通、医療などの情報を多言語で提供する「市多言語ウェブサイト」開設のお披露目を兼ねて行われたこのイベント。市内に住む外国人市民をパネラーに迎え「好きな日本語」「日常生活の必要な情報」「地域との係わり」など、外国人市民が感じる本音を語り合いました。

本音を語り合い盛り上がったトークショー

唱歌かるたを楽しむ参加者

笑顔が絶えないかるた取り

衣川区

４地区合同健康出前講座

衣川区内の地区振興会（北股・南股・衣川・衣里）主催の健康出前講座が２月 27 日、衣川山村開発センターで開催され、24 人が参加しました。初の合同開催となった同講座では、高齢者福祉サービスや認知症の説明に続き、レクリエーションが行われました。

脳の活性化に効果があるというかるた取りは、読み札が学校唱歌になった唱歌かるた。曲が流れると札を取るのも忘れて口ずさむ人もあり、会場は笑顔と歌声に包まれていました。